

第8回府中市中心市街地活性化協議会 議事のまとめ

1 日 時 平成27年12月15日(火) 午後3時～午後4時30分

2 場 所 市役所西庁舎3階 第1・2委員会室

3 出席者

(1) 委員

青山会長

加藤委員

宮委員

竹田委員

大津委員

高橋委員

並木委員

榎ヶ峠委員

《欠席》

・中井副会長

・秋山委員

・猿渡委員

(2) 東京都府中市

高野府中市長

深美都市整備部まちづくり担当参事

佐藤政策課主幹(兼)総合教育会議担当主幹

本間政策課主査

大木政策課主査

佐伯経済観光課長

市川地域安全対策課長

小塚地域安全対策課長補佐

江口ふるさと文化財課長

松村管理課長

楠本計画課長

町井計画課長補佐

下田計画課主任

瀬野計画課事務職員

塩澤土木課長補佐

角倉公園緑地課長

(3) 広島県府中市

府中市まちづくり部まちづくり課都市計画係長 日野氏

府中市まちづくり部まちづくり課都市計画係 掛江氏

(4) 独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部

中心市街地サポートマネージャー 原田氏

地域振興部地域振興課 関谷氏

4 まとめ

(1) 広島県府中市における中心市街地活性化基本計画に基づく取組と効果について

●広島県府中市 ■原田タウンマネージャー ☆青山会長 △委員

△ まちが目指すものや新しい取組に対する姿勢等、感銘を受けるところが多々

あり参考にさせていただきたいと思った。その中で、三点ほど質問をさせていただきたい。

一点目が、学校の統合ということで、街なかに子どもを集めるという事業を展開していく中で、実質、集まる子供の数が増えてきて、そこを通る人の数という面でいえば明らかな数字で上がってきていると思うが、子どもたちが集まってきたということで、プラスアルファで見いだせた付加価値等はあるか。

二点目が、チャレンジショップについて、スキームというか、店舗を提供する側（所有者）がいて、行政が間に入ってという流れで提供していくということになると思うが、差障りのない程度でかまわないので、家賃形態というか、どのような形で創業される方に店舗を提供していく流れをつくっているのかを聞かせていただきたい。

最後に、特にこの2、3年で様々な取組を展開されているかと思うが、現状で、中心市街地活性化基本計画を進める中で、生まれてきている課題があれば教えていただきたい。

- 一点目について、街なかに統合小中学校を整備したことによるプラスアルファの効果は、やはり、子どもたちが今まで外に出ていたものが、中に集まってくる。それにより地域の人たちも興味を持ち安全対策や見守り隊が立ち上がったり、親御さんが街なかで集まったりという成果があると考えている。また、教育環境として、子どもたちも「見られている」という感覚を持っていて、これが非常に重要である。見られていることによって、より成長していく面があるかと思うので、教育の面でも面白い取組であったと自負している。

三点目について、我々の挑戦は、始まったばかりで、成果が出ているものではない。未だに人口は減っているし、これから人口が復活するかといえばそうでもない。このままいけば、人口は2万5千人程度になると思うが、その中で、どのような街を目指すのか、中心市街地がどうあるべきかが重要。ある程度の人口密度がないと中心市街地を維持できず、中心市街地を維持することによって集落と一緒に維持できると考えているので、現在、国土交通省が進めている立地適正化計画ではないが、都市機能の誘導をどのように進めていくかが課題であると考えている。

- 二点目について、先ほどの説明だけだと、簡単にお店に入っているように思われるかもしれないが、実は、これに至るまでに様々なソフト事業をかませている。広島県府中市都市計画課の方と一緒に空家の調査事業を何度か繰り返し、持ち主に対して「どうせ空き家にしているのなら固定資産税くらいで貸したらどうか」という働きかけを行ってきた。もちろん貸したくないという方もいるが、使っていいというところもあった。このようにイベント等を通じて大屋さんに直接働きかけるということを広島県府中市では繰り返し行ってきた。賃貸契約については、間にまちづくり会社も入っていないし、NPOも入っていない。直接持ち主と店子で結んでいただくようにしている。

☆ DIDの話があったが、全国的に言うと、DID人口は減るけれどDID面積は減らないという点に悩みがあるが、広島県府中市では、DID面積がへるどころか増えている。先ほど、将来人口がどのくらいになるかについての数字もあったが、その場合に、DID面積をどうするかという議論があれば教えて

いただきたい。

- 人口が減る中でロードサイド型に様々な店舗ができ、スプロール的にまちが広がってきた。中心市街地内には都市内農地が多くあり、我々としては、農地が市街化区域にあってもいいじゃないかという考え。もしかしたらそこでちゃんとした業をしてくれるというのも考えている。

☆ 商店を復活させる場合も含めて、ある程度商店がある区域や道路を減らすというか集約するというか、そういう議論はあるか。

- 議論はある。ただ、ロードサイド型の商店を全く否定する気はなく、やはり目的をもった商店、例えば電器屋が来るとすれば、安いロードサイド型の電器屋に建替えても良いと思う。ただし、中心市街地内区域の商店というのは、「何もなくても面白い」、「目的が無くても集まれる」ような場所にできないかということ取組んでいるところ。

△ 地域の中から出た「やりたい」を事業化していくとの話があったが、「かっこいい父ちゃんになりたい」を例として、具体的にどのように事業展開を図って行ったのか伺いたい。

- 事業展開の仕方は様々だが、私は、中心市街地活性化協議会などオフィシャルな会議にはあまり出席していなかったが、どちらかという食事に行った際に隣にいた人に話しかけたり、中心市街地活性化協議会の中に「市民参加委員会」というWGがあったので、そこで収集を行ったり、あとは「まちづくりオフィス」という自分の中心市街地活性化の事務所を商店街の空き店舗で持ったが、その壁を塗るということをSNSでみんなに周知して、それに集まってきた人たちをグループにして話を聞いていた。

「かっこいい父ちゃんになりたい」は、そのグループの人たちと仲良くなって踏み込んだ話をした際に子どもが何歳だとか個人的な話をする中で、「かっこいい父ちゃんになりたい」と本人が言っていたので、「きらりん夜市」というイベントを提案した。また、新聞の切り抜きで、岡山県のある村が木育でも有名で、居住者が増えているとの記事を見たので、本人に渡して「これをやったらかっこいい父ちゃんになれると思うよ」という話をし、木育をやろうということになった。このように話すと、行き当たりばつりに聞こえるが、「その人が何をやりたいか」をベースに具体的な事業を提案し、嫌だと言われれば無理強いほしない。

△ 各委員会(WG)の委員の人数はある程度固定化されているのか否か、また、NPO法人のメンバーを見ると理事長以下、皆さん30代の方たちだが、30代の人たちで取組んでいくに至った経緯について伺いたい。

- 中心市街地活性化協議会については、各組織を代表される方々が中心なので、30代ということはないが、この時のWGは一つ当たり3、4人で、この人たちが中心メンバー。その中で、中心人物が辞めるのは無しという前提付で「人手が足りない」とか「仲間を増やしたい」とWGが判断すれば、人を増やすこ

とは全く止めていなかった。

NPO法人の役員たちが30代であることについては、これまでまちを築いてこられた方たちと、これからのまちづくりを担っていく人たちの役割は違って然るべきであると思っており、若い人たちの活躍の場を中心市街地活性化協議会とは別につくる必要があると感じていたため。

☆ 「道の駅」について、現在進行中とのことだが、内容とか構成について議論されていると思うが、地場産品だとか、あるいはそうでないところからの出品だとか、現段階での議論について伺いたい。

● 我々の道の駅については、登録に向けて調整を進めているところであり、現在、設計が終わり、工事に着手したところ。完成は、平成28年10月を目標としている。道の駅に入れていくものとして、一つは「産直市」というものを考えており、市街地にある農地を含めて、家庭菜園でつくった野菜も売れるような仕掛け作りができればと考えている。さらに、新たな加工品を開発しながらやって行こうと考えている。また、先ほど「木育」ということもあり、新たなおもちゃの開発も行っているので、そういったものも取り入れられればという議論を行っている。指定管理者も決まったので、これからが詳細に煮詰めていく段階。

△ 今の人口は4万1千人で、数年後には半分くらいになってしまうのではという話があった。府中市の人口は減少しているが、B1グランプリでは14万人の方が訪れるなど、まちの勢いが出てきているという判断をしているのか。

● 人口については、日本全国で減少しているので、増えるというのは現実的ではないと思う。ただ、減少しながらも上手にまちを縮小し、維持し続けることが大事であると考えている。コンパクトに縮小したまちの中で、今以上に活性化することを目標として取り組んでいる。

△ 素晴らしいと思う。

● まだ結果は出ていないが、そのつもりで取り組んでいる。

☆ 人口について、近隣市（福山市を除く）からの移動や流入、例えば店舗であれば若い方が来て開業するとか、あるいは覗きに來るといった可能性はあるか。

● 府中市は、冒頭に説明した通り4万5千人の都市で、高速道路も港も無い、新幹線も無いが、なぜか企業が多くあり、二次産業の占める割合が非常に高く45%くらいある。働く場所があるというメリットを活かして、昼間人口の方が夜間人口より多いという特徴がある。そうしたメリットを活かせば、ある程度働く場所があるということで、活動が見込めるのではないか。さらに、人口が少ないため大きな事業はできないが、古くて面白い建物が空き家としてまだ残っており、そういった活動の中で、新たな店舗やにぎわい、若い人たちの開業が見込めるというところで、一期、二期計画を上手に維持していきたい。

△ 大店立地法の特例について、市が独自で条例か何かをつくって、特区内に限って認める特例なのか、あるいは市域全体において認める特例なのか。

● 「中心市街地の活性化に関する法律」の中で、認定区域について1千㎡以上の商業施設を開業するときには、本来いろんな手続があつて、縦覧とか閲覧とかあるので、半年程度の期間が必要となるが、そこを俊敏にするために中心市街地活性化基本計画の認定を受けると、許認可を免除するという特例がある。

それを活用しており、天満屋のあたりで道の駅を整備することもあり、特例区域として設定している。

△ 建物の容積率等を緩和するような特例ではないのか。

● そのような内容ではない。あくまでも大店立地法に基づく手続きの簡素化。

△ 「子育て支援センターPOM」について、この施設だけ枠の外にあるように感じるが、やはり、一体として捉えているのか。

● 捉えている。大変な人気施設で、府中市の中で、川の横にこの施設があって、公園があってという市街地に近くて、かつ、豊かな自然を有するというので、このような環境の中で子育てがしたいという方が多くいる。本事業は、老朽化による建替えである。

(2) その他

ア 府中市中心市街地活性化基本計画（案）の現況について報告

(7) 11月24日（火）から12月25日（金）までパブリックコメントを実施中。
（平成12月8日（火）時点での意見・要望等は0件）

(4) けやき並木周辺で開催されたイベントにおいて、これまで4回ポスターセッションを実施。（各回において、「商業施設の充実」に期待を寄せている方が最も多い）

(7) 中心市街地活性化基本計画に掲載されている事業について、関係省庁との調整状況を報告。

イ 平成28年協議会の開催日時について連絡

(7) 第9回協議会（平成28年2月8日（月）午後3時30分から）

(4) 第10回協議会（平成28年3月24日（木）午後3時30分から）